

宮古島市平良字下里方言の原因・理由表現

中本 謙

(1)はじめに

宮古島は、沖縄本島から南西約 300 kmに位置する面積約 160 平方kmの平坦な島である。

ここでは、宮古島市平良字下里方言の原因・理由表現について、これまでおこなった調査資料をもとに報告する。

平良字下里方言の原因・理由表現の特徴を示すと次のとおりである。

①「から」と「ので」の用法

平良字下里方言の「から」と「ので」の用法は、例えば「降るから、降るので」、「若いから、若いので」は、ツフイバ（降れば）、バカカイバ（若ければ）のように「条件形+ば」であらわされる。これは、日本語史における「已然形+ば」に対応するものである。終止形はそれぞれツフイウ、バカカイウである。また、ツフイバドゥ（降ればぞ）、バカカイバドゥ（若ければぞ）のようにバにドゥ（ぞ、とりたての係助詞）がつくことがあるが、ほとんど意味は希薄化しているようである。

平良字下里方言では、スグ ムドゥリ クーディッシバ、（すぐに戻ってくるから。）のようにディッシバという形式があらわれる。これは、意志、志向を表すディ（う）「む推量の助動詞+て接続助詞」に シバ（すれば）が付いた形であると考えられる。他にもクーッチバ（来る）未然形+ティ「て」+シバ という形式があらわれるがクーディッシバの方がより強い確定をあらわすようである。

宮古方言の「条件形+ば」の形式は、以上のような「から」と「ので」の用法以外にも、イキバドゥ ッサリイウ（行けばぞわかる）のような条件をあらわすこともできる。

②「のだから」の用法

宮古方言では、原因・理由の表現は「条件形+ば」であらわされ、「のだから」のような形態的に「(準体助詞+)指定辞+原因・理由の接続助詞」の形式は確認できない。

③接続詞「だから」の用法

接続詞「だから」に相当する形式は、アッシバ（アッシウ「する」の条件形+バ）であらわされる。ただし、「これだから」「あれだから」のように指示語が付く場合は、それぞれカンチャイバ（この様+ヤイウ「だ」の条件形+バ）、アンチャイバ（あの様+ヤイウ「だ」の条件形+バ）とあらわされる。「それだから」に相当する形はあらわれない。

(2)調査の概要

話者情報：下地トミ子氏，1947年5月7日生，元小学校教頭，宮古島市平良字下里出身。

調査時期：2007年1月，2008年1月。

調査場所：琉球大学教育学部 529 研究室。

調査方法：面接調査。具体的には，調査票の例文を話者が目をとおし，宮古島市平良方言に訳して読み上げるという形で進めた。記録はMDで録音し，表記は，I. P. Aでおこなった。

(3) 文字化について

調査はIPA表記でおこなったが、本稿ではカタカナに変換して示す。なお、宮古方言の特徴的な音韻は以下のように示す。

iーイウ kīーキウ sīーシウ tsīーチウ dzīージウ pīーピウ faーファ fiーフィ
fuーフ vaーヴァ viーヴィ m (成節的子音) ーム

宮古方言では語頭に促音がたつことがあるが、ffaーツファ のようにあらかず。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因（接続調査を兼ねる）

1-1-1 マイニチュ アミヌ ッフイバ, キウンヌ カーラカン.

〈毎日雨が降るから、衣が乾かない。〉

1-1-2 マイニチュ アミヤイバ, キンヌ カーラカン.

〈毎日雨だから、衣が乾かない。〉

注：アミヤイウ（雨だ）。

1-1-3 ワーチュウキウヌ ゴーカイバ, キウンヌ ユーカラキウ.

〈天気がいいから、絹がよく乾く。〉

注：ワーチュウキウ（上つ気）。 ゴーカイウ（じゃうかり）。「上」をカリ活用化させた語であると考えられる。

1-1-4 クヌヘヤー シウズカヤイバ, シグトウヌ パカドゥイウ.

〈この部屋は静かだから、仕事ははかどる。〉

注：シウズカヤイウ（静かだ）。琉球方言では、宮古方言も含めて形容動詞はほとんど発達していない。本来、「静か」をあらわす語は、トリウ（風ぐ）であらわされるため、シウズカヤイウ（静かだ）は比較的新しい語であると考えられる。

1-1-5 ユビ ウプアミヌ ッフタイバ, ミジウヌ タマリウイウ.

〈夕べ大雨が降ったから、水がたまっている。〉

注：ッフタイバ（降りたれば）。ミジウヌ タマリウイウ（水がたまっている）。

1-1-6 ヤラビヤイバ, シウサツタン.

〈子供だから、わからなかった。〉

注：ヤラビ（童）。シウサツタン（知らなかった）。

1-2 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

1-2-1 ドウーヌ バイウカイバドウ, シウグトウー ヤスンタイウ.

〈体調が悪いから、仕事を休んだ。〉

注：ドウー（胴）。バイウカイウ（悪かり）。宮古方言では、語頭のワ行子音はb音に対応する。ヤスンタイウ（休みたり）。

1-2-2 ドウーヌ バイウカイバドウ, キューヤ シウグトウ ヤスマディ.

〈体調が悪いから、今日は仕事を休もう。〉

1-2-3 ユーヌムツァ ッファカイバ, マーチュウキ ヤーンカイ ゴー.

〈夜道は暗いから、一緒に家に行こう。〉

注：ッファカイバ（暗かれば）。クラ>ッファの変化。

1-2-4 アカングウヌ ニツヴューイバ, スナーシウリ.

〈赤子が寝ているから、静かにしろ。〉

1-2-5 アカングワヌ ニツヴューイバ, スナーシウリフィジャーナ.

〈赤子が寝ているから、静かにしてくれないか。(依頼)〉

注：フィジャーナ<クレ(呉れ)+ディ(う)+アラン(あらぬ)+ナ。

1-2-6 アミヌ ッファイバ, サノー ムチピリ.

〈雨が降るから、傘を持って行け。〉

注：サナ(傘)+オ(を「助詞」)>サノー。

1-3 判断の根拠

1-3-1a プシウヌ イデューイバ, アツアマイ ゴー ワーチュウキウ ナイウパジウ.

〈星が出ているから、明日もいい天気になるだろう。〉

注：イデューイバ(出でおれば)。アツアマイ(明日も)。～マイは助詞「も」に相当する。ナイウパジウ(なるはず)「なるだろう」の意。宮古方言では、推量の表現「～だろう」は、～パズ(～はず)であらわされる。

1-3-1b A:アツアマイ ゴー ワーチュウキウ ナイウパジウ.

〈明日もいい天気になるだろう。〉

B:ノーティガ ッサイリヤー.

〈どうしてわかるの?〉

注：ノー(何)。

A:プスウヌ イデューイバ.

〈星が出ているから。〉

1-3-2 ピウダイウフウスーユビンカイ ウイビガニ シーウリバ, ササギヤー シードウー.

〈左手薬指に指輪をしているから、結婚している。〉

1-3-3 イサクマイ イディ, ニチウヌ アイバ, カジュー ピウキューガラッサイ.

〈咳も出で、熱があるので、風邪を引いたのかもしれない。〉

注：ニチウヌ アイバ(熱があれば)。ガラッサイン(か+あらむ+知れぬ)。

1-3-4 キウサ シンブンハイタツヌ ウトウヌ シウタイバ, ゴジャー スギドウーパジウ.

〈さっき新聞配達の声がしたから、5時を過ぎだろう。〉

1-4 発言・態度の根拠

1-4-1 ウカーシウカイバ ウヌカーンナ アスプナ.

〈危ないから、この川で遊ぶな。〉

1-4-2 カジュー ピウキウチュウカー ナランニバ, イッパイ キシピリ.

〈風邪をひくといけないから、いっぱい着て行け。〉

1-4-3 キューヌ シグトゥ ンーナ シウマイタイバ, ンニャ ピラ.

〈今日の仕事みんな終わったから、もう帰ろう。〉

注：シウマイタイバ(終いたれば)。

1-5 理由を表さない用法

1-5-1 スグ ムドウリクーツチバ, クマンウティ マチューリ フィール.

〈すぐ戻ってくるから、ここで待っていてくれ。〉

注：ムドウリ(戻り)クー(未然形)ツチバ(てすれば)。

- 1-5-2 イッカイシ ジョーブンヤイバ ピラミッドン ノーリーミーバー.
 〈一回で十分だから、ピラミッドに登ってみたい。〉
 注：ジョーブンヤイバ（十分やれば）。
- 1-5-3 タンディヤイバ, ジンヌ カラシウフィーサーチ.
 〈お願いだから、銭を貸して下さい。〉
 注：カラシウ（貸らせる）使役で「貸す」の意をあらわす。フィーサーチ（呉れさまち）尊敬の表現「～して下さい」の意。
- 1-5-4 クルモー アビリッフィーディッシバ スグ ビョーインカイ ピリ.
 〈車を呼んであげるから、すぐ病院へ行け。〉
 注：アビイウ（呼ぶ）。 ッフィーイウ（あげる/呉れる）。
- 1-5-5 ツクエヌ ワーグン ウチウキウキバ バガサイフー トウイキシッフィーージ
 ャーンナ.
 〈机の上においてあるから、僕の財布を取ってきてくれないか。〉
 注：ウチウキウキバ（置き付きおけば）。

1-6 原因・理由節の述語用法（XはYからだ）

- 1-6-1 A ドゥーヌ ノーガラー バシードゥー. 〈気分が悪い。〉
 B アンチー ウパーター ヌミバサーイ. 〈あんなにたくさん飲むからだよ。〉
 注：ドゥーヌ（胴の）「体の」の意。ノーガラー（何かやら）。サーイ終助詞「～だよ」の意。
- 1-6-2 A キューヤ デパートヌ ピウトゥヌ ンチューイウヤ.
 〈今日はデパートが込んでいるなあ。〉
 B ニチヨービ ヤイバサーイ 〈日曜日だからだよ。〉
 注：ンチューイウ（満ちている）「込んでいる」の意。
- 1-6-3 A クヌグルー タローヤ バタヌ フサリチャーナドゥウイウ.
 〈この頃太郎は機嫌が悪いんだ。〉
 B ッヴァガ ジローチャーナ プミウイバ ビャーヤー.
 〈おまえが次郎のことばかりほめるからじゃないか?〉
 注：バタヌ フサリチャーナドゥウイウ（腹が腐さってばかりいる）。「機嫌が悪い」の意。
- 1-6-4 A クヌグルー タローヤ バタヌ フサリチャーナドゥウイウ.
 〈この頃、太郎は機嫌が悪いんだ。〉
 B バガ ジローチャーナ プミウイバ ビャーヤー.
 〈私が次郎ばかりほめるからかなあ。〉
- 1-6-5 A クヌグルー, タローヤ バタヌ フサリチャーナドゥウイウ.
 〈この頃、太郎は機嫌が悪いんだ。〉
 B ジローチャーナ プミライリバ, ガラッサインヤー.
 〈次郎ばかりほめられるからかもしれないなあ。〉
 注：ガラッサイン（か+あらむ+知れぬ）。
- 1-6-6 A ヤーユ ウッチキシカラ パソコンヌ チョーシヌドウ バルフウ ナリユイウ.
 〈家移ってきてから、パソコンの調子が悪くなっている。〉
 B ウリヤー ムチキウシウトウキャン ウトウシウタイバガラッサイン.
 〈それは、持ってくる時に落としたからかもしれない。〉
 注：ウリヤー<ウリ+ヤー（それは）。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 キューヌユーヤ アミヌドウ ッフイウパジウヤイバ, ピャーシ ピラ.

〈今日の夜は雨が降るはずだから、早く帰ろう。〉

注：ッフイウパズ（降るはず）「降るだろう」の意。宮古方言では、推量の表現「～だろう」は、～パズ（～はず）であらわされる。

1-7-1-2 キューヌユーヤ アミヌ ッフイウパジウヤイバ, ピャーシ ピラ.

〈今日の夜は雨が降るらしいから、早めに帰ろう。〉

1-7-1-3 キューヌユーヤ アミヌ ッファティウイバ ピャーシピラ.

〈今日の夜は雨が降りそうだから、早めに帰ろう。〉

注：ッファティウイバ（降るっておれば）。

1-7-1-4 ンニヤ ニツウヌ アイウノーカイバ, ピャーシ ピラディ.

〈もう熱があるようだから、早く帰ることにした。〉

1-7-1-5 アミヌ ッフイウガラッサイニバ, サノードウ ムチキウシウタイウ.

〈雨が降るかもしれないから、傘を持ってきた。〉

1-7-2 推量表現

1-7-2-1 アミヌ ッフイウパジウヤイバ, サノー ムチピリ.

〈雨が降るだろうから、傘を持っていけ。〉

1-7-2-2 ヤマンナー アリヤーミン ウプアミヌ ッフターパジウヤイバ, ジューヌ キウジウリキウシウヌドウ シワ.

〈山ではかなり大雨が降っただろうから、地崩れが心配だ。〉

1-7-2-3 アンチーナー アミヤー ッファンパジウヤイバ サノーバ ムチイカジャン.

〈たいした雨は降らないだろうから、傘は持っていかない。〉

注：サノーバ<サナ（傘）オ（を）バ。イカジャン<イカ（未然形）ディ（う）アラン（あらむ）。

1-7-2-4 アラーア ピシーピシーウイウパジウヤイバ ウパーターキシー イカディ.

〈外は寒いだろうから、たくさん着て行こう。〉

注：ピシーピシーは、ピシカイウ（寒かり）の強調表現。

1-7-2-5 ウリヤーンナ アツアマイ アミパズウヤイバ エンソクヤ シウーンパジウヤー.

〈この分だと明日も雨だろうから、遠足は中止になるだろう。〉

注：シウーンパジウヤー（しないはずよ）。

1-7-3 丁寧表現

平良字下里方言では、丁寧形式は認められない。従って、1-7-3-1のように「話がありますので」は、パナシウヌ アイバ（話があれば）と示される。

1-7-3-1 イピーチャ パナシウヌ アイバ クマンカイ キウシウフィール.

〈ちょっと話がありますので、ここに来てください。〉

注：パナシウヌ アイバ（話があれば）。

1-7-3-2 ウカーシウカイバ カケコミシウーナ.

〈危険ですので、かけ込みするな。〉

1-7-3-3 サトウヌ フタウヤヌ キウシバ, キューヤ イピーチャ ピャーシ ピラシ

ッフィーサーチ。〈里の両親が来ますので、今日は少し早めに帰らせていただいてもよろしいですか。〉

注：キウシバ（来すれば）。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

1-8-1-1 クマンカイ ピーチャ マチューリヨー スグ ムドゥリ クーディッシバ。

〈ここでちょっと待っていてよ。すぐもどって来るから。〉

注：クー（未然形）+ディ（う）+シバ（すれば）。

1-8-1-2 アターマガマ ゴセンエン カラシ。 ゲツマツガミヤ カエサッチバ。

〈ちょっと5千円貸して。月末までに返すから。〉

注：ガミ（まで）+ヤ（は）>ガミヤ。カエサッチバ<カエサ（返さ）ティ（て）シバ（すれば）。

1-8-1-3 エキガミ ムカイガクー。 シチジン チウキバ。

〈駅まで迎えに来て。7時に着くから。〉

1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アトゥカラ ンナ イッカイ デンワ スーディッシバ。

〈あとで、もう一度電話するから。〉

1-8-2-2 アターマ イディクーディッシバ カーシウ プリンヌ レゾーコンカイ パイウ
ジウドウイバ。

〈ちょっと出でくるから、菓子、プリンが冷蔵庫に入っているから。〉

注：パイウジウドウイバ（入りぞおれば）。

1-8-2-3 ヅヴァガ クトゥーバー イチウーガミマイ バッシジャーニバ。

〈君のことはいつまでも忘れないから。〉

注：クトゥーバー<クトウ（こと）オ（を）バ。イチウーガミマイ（いつまでも）。

1-8-2-4 ウヤンカイ アイウザッチバヤー。

〈お父さんに言いつけてやるからな。〉

注：ウヤ（親）「父」の意。

1-8-2-5 ゴジガミヤー エキヌマエヌ キッサテンン ウラディッシバ。

〈5時まで駅前の喫茶店にいるから。〉

注：ウラ（居ら）+ディ（う）+シバ（すれば）。

1-8-2-6 アターマ スーパーガミ ムヌコーガ イキクディッシバ。

〈ちょっと、スーパーまでもの買いに行ってくるから。〉

1-8-2-7 クヌパナシウ ピウトウンカイ アーチウカー タダシーヤ ウカジャーニ
バヤ。〈この話人に言ったら、ただではおかないからな。〉

注：ウカジャーニ<ウカ（おか）+ディ（う）+アラン（あらぬ）。

2 「のだから」の用法

平良字下里方言では、原因、理由の表現は「条件形+ば」であらわされ、形態的に「(準体助詞+)指定辞+原因・理由の接続助詞」の形式は確認できない。

2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a ジカンヌ ニヤーンニバ ピヤーピヤーティッシウタイウ.

〈時間がないから急いだ。〉

注：ピヤーピヤーティッシウタイウ（早々としたり）。

2-1-1b ジカンヌ ニヤーンニバ ピヤーマリ.

〈時間がないから急ごう。〉

2-1-1c ジカンヌ ニヤーンニバ ピヤーピヤーティシウ.

〈時間がないから急げ。〉

2-1-2 ワーチウキウヌ ゴーカイバ ウマトーマーイウガティ イキウタイウ.

〈天気がいいから散歩に行った。〉

注：ウマトーマーイウガティ（そこらをまわりながら）。

2-1-3 マイニチウ アミヌ ッフイバ キウンヌ カーラカン.

〈毎日雨が降るから衣が乾かない。〉

2-1-4 ユビ ウプアミヌ ッフタイバドウ ジウーン ミジウヌ タマリウイウ.

〈夕べ大雨が降ったから地に水がたまっている。〉

2-2 意味・用法（接続調査を兼ねる）

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1 カンチーサーティ シウタイバドウ クンドー ゴーゾーナイウバジウ.

〈こんなに一生懸命したから、今度は良くなるはず。〉

注：シウタイバドウ（したればぞ）。

2-2-1-2 ダイジウナ パナシウ シウウイバ ヤラビヤー カマンカイ イキューリ.

〈大事な話をしているから、子供はあっちへ行っちなさい。〉

注：ヤラビヤー<ヤラビ（童）+ヤ（は）。

2-2-1-3 クマー シンケンヤーバ カラカーダナシーフィール.

〈こっちは真剣だから、からかわないでくれよ。〉

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1 バカカイバ イツカイニカイヌ シッパイヤシー キウム フサガリウイウナ.

〈若いから、1度や2度の失敗でくよくよするな。〉

注：キウム フサガリウイウナ（肝ふさがり居るな）で「くよくよするな」の意。

2-2-2-2 ジュケンセー ヤイバ ンナピ シンケンナリ ベンキョーッシウ.

〈受験生だから、もっと真剣に勉強しろ。〉

2-2-2-3 セツカク リューガクシバ マナーンティ ベンキョーシウクーヨー.

〈せっかく留学するから、ちゃんと勉強して来いよ。〉

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカンナ ンナダ ウパータアリバ スカーヌカーシーピリ.

〈時間は未だたくさんあるから、ゆっくりして行け。〉

2-2-3-2 チャンスア ンナダ アリバ イウザ イダシウラ.

〈チャンスは未だあるから、元気を出せよ。〉

注：イジウ（意地）+オ（を）>イザ。

2-2-3-3 ンナーヤガティ タイインシライリバ ンナピーツチャガマヌ ガマンドーヤ.

〈もうやがて退院できるから、もう少しの我慢じゃないか。〉

2-2-4 倒置

2-2-4-1 ドゥーガドゥーユバ カンガエルラ ンニャ バカムヌ アランニバ.

〈自分の体を考えろ。もう若者ではないから。〉

注：ドゥーガドゥーユバ（胴が胴をば）「自分の体は」の意。ドゥー（胴）は「自分」の意でも用いられる。

2-2-4-2 ドゥーシー キミルラ ンニャ ヤラビヤ アランニバ.

〈自分で決めろよ。もう子どもじゃないから。〉

2-2-4-3 ウリヤー シオーバ ッシウツドー ウヤヤイバ.

〈そりゃ心配をするよ。親なんだから。〉

注：シオーバ（世話「心配」をば）。

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 バーヤ カナラジウ カイトウ マーチウキウ ナラディヤイバ.

〈私は、必ず彼と一緒にいるんだから。〉

2-2-5-2 バガ キウムー ユルシウカー クリヤー スグー ドゥーカッティシーバ.

〈私が心を許すと、これは、すぐ自分勝手するんだから。〉

注：キム（肝）「心」の意。

2-2-5-3 カヌ ビキドウムティシウチウカー アリヤーミン サキフシヌ バーカイバ.

〈あの男ときたら、まったく酒癖が悪いんだから。〉

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 ンナマナギヤー マイニチウ アミヌ ッフィーイウ. アッシバ キウンヌ カーラカン.

〈最近は毎日雨が降る。だから衣が乾かない。〉

注：アッシウ（「する」終止形）。アッシバ（アッシ条件形+バ）。

3-1-2 ンナ ヤガティ ヤーユ パイウディイウ サンジュップンマイドー. アッシバ ピヤーシウー ウキル.

〈もうやがて家を出る30分前よ。だから早く起きろ。〉

3-1-3 スグムドゥリクーディ. アッシバ クマン マチューリフィール.

〈すぐ戻ってくる。だからここで待っていてくれ。〉

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A：ンナマナギヤー マイニチウ アミヌ ッフイウジャ.

〈最近毎日雨が降るね。〉

B：アンチヤー アッシバ キウンヌ カーラカンニバナランニュー.

〈うん。だから衣が乾かなくて困るよ。〉

注：カーラカンニバナランニュー（乾かなければならぬよ）。

3-2-1-2 A：キューヤ アミヌ ッフパジウ ティヤー.

〈今日は雨が降るそうだね。〉

B : アッシバ サノー ムチピリ.
 〈だから傘を持っていけ。〉

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

- 3-2-2-1 A : アガンニャ ダイジウ. アミノドウ ッフィキウシウ.
 〈大変だ。雨が降ってきた。〉
 B 1 : アッシバ ノーヤーバガ. 〈だからどうしたか?〉
 B 2 : アッシバ ノーヤリヤー. 〈だから何なの?〉
 B 3 : アッシバ. 〈だから?〉

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの。

- 3-2-3-1 A : ジコヤシードウ デンシャマイ ウクリューツァー.
 〈事故で電車も遅れているそうだよ。〉
 B : アンチャーナー. アッシバドウ ンナー ンニャダ クンサイガ.
 〈そうか。だから、みんなまだ来ないんだ。〉
 3-2-3-2 カンチャイバ レンキューンナ プカンナ イディブーファニャーン.
 〈これだから連休に外に出るのは嫌なんだ。〉
 3-2-3-3 アンチャイバ レンキューンナ プカンカイヤ イディブーファニャーン.
 〈あれだから連休に外に出るのは嫌なんだ。〉

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの。

- 3-2-4-1a アッシバ ッシウナティ アイウタイウサイ. 〈だから、するなと言ったのだ。〉
 b アッシバ ッシウナティ アイウタイウナ. 〈だから、するなと言っただろう。〉
 c アッシバ ッシウナティ アイウタイウアランニャー. 〈だから、するなと言ったじゃないか。〉
 3-2-4-2 アッシバ スナティー アイウタイウサイガ.
 〈だから、するなと言ったじゃないか〉

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

- 3-3-1-1 A : キウツサ タヌムタイウ シウグトゥーバ, チャントウスヨー.
 〈さっき頼んだ仕事を、ちゃんとしろよ。〉
 B : ンー キューンナ スーチバ. ンナマ パンタカイバ シーラインニバ.
 〈うん、今日中にするってば。今忙しいからできないんだ。〉

注 : パンタカイバ (繁多かれば)。

- A : アチャガミ ッスヨー 〈明日までにしてよ。〉
 B 1 : アッシバ, キューンナ ッシウーディーティ アッジウウイウサイガ.
 〈だから、今日中にすると言っているじゃないか。〉
 B 2 : アッシバ, キューンナ ッシウー ディュー.

〈だから、今日中にするよ。〉

3-3-1-2 A : キューヤ タヌミグトゥヌ アリドゥー クスタイウサイ.

〈今日は頼み事があって来たんだ。〉

B : ノーヤリヤー パナシウミール.

〈何? 話してみろ。〉

A : アリヤーミン ウブグトゥドーヤー.

〈とても大事なことなんだ。〉

B 1 : アッシバ パナシウミールティ アッジウウイウサイガ.

〈だから、話してみろと言っているじゃないか。〉

B 2 : アッシバ パナシウミール

〈だから、話してみろ。〉

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A : キウッサ タヌムタイウ シウグトゥバー シドゥークー.

〈さっき頼んだ仕事をば、してくれた?〉

B : アバ ノーヌクトウ ヤリヤー.

〈え? 何のことだ?〉

A : アッシバ シウトウムティ タヌムタイウ カヌ シウグトゥサイ.

〈だから、午前中に頼んだあの仕事だよ。〉

注 : シウトウムティ (つとめて)。

3-3-2-2 A : キュー チョードウ タナカサンカイ イデョータイウドーヤー.

〈「今日、ちょうど田中さんに出であったよ。〉

B : ンザヌ タナカサン ヤリヤー 〈どの田中さんだ?〉

A : アッシバ クウヌパナシュータイウ サンチョーメヌ タナカサンサイ.

〈だから、昨日話していた3丁目の田中さんだよ。〉